

## 道徳科 学習指導案

日時	平成 30 年 10 月 18 日(木)
児童	中学校 1 年 組 名
授業者	

1 主題名 家族の一員としての自覚をもち充実した家庭生活を築くこと

【C 主として集団や社会との関わりに関すること】

2 教材名「一冊のノート」 ※補助教材 CM「銀の皿」

3 主題設定の理由

(1)ねらいと価値について

本時の主題は「父母、祖父母を敬愛し家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと」の内容項目に当たる。

相田みつを氏の詩に「過去無量のいのちのバトンを受けついで いまここに自分の番を生きている」と表現されているように人は、過去から受け継がれた生命の流れの中で生きている。子どもたちの家庭を取り巻く状況は様々であるが、誰かにかけてがえのない子どもとして無私の愛情をもって育てられたという点は同じであると考えたい。そこでは暮らしを共にする家族の成員相互が深い愛情や温かい信頼関係によって結ばれていることが大切であるという自覚をもつことが必要である。その自覚をもつことが、より充実した家庭生活を築くことにもつながる。

中学生の時期は自分の判断や意思で行動しようとする意欲が高まってくる。そのため、家族の自分への指示、注意を押しつけと受け止め、素直に受け入れられない機会が増える傾向にある。さらに周囲からの忠告や叱責が自分の存在を否定しているように思え、反抗したくなる時期でもある。

この時期の生徒が自らの生活を振り返り、父母や祖父母の深い愛情を受けて育てられていることに気づくことはとても大切なことである。自分と家族とのかかわり、家庭生活のあり方が社会の様々な場面で人と関わる上での基礎であり、他者を思いやりの心で見つめ、深く理解しようとする心情を育てることにつながるからである。さらに、内容項目のねらいである家族の一員として互いに支え合っていくことが家庭生活を充実させることに気づかせ自分が家族の中でどのような立場で何ができるのかを考え、実践していく態度につながるよう、教材を通して深まった祖父母への思いを家族への思いに広げていきたい。

(2)生徒の実態

本授業を行うにあたり、ねらいとする価値に対する生徒の実態を把握するため、道徳性に関するアンケートを実施した。本時に関連する項目 C の結果は次の通りである。

ア・・・いつもしている、そのとおりだ	イ・・・だいたいしている、だいたいそのとおりだ
ウ・・・あまりしていない、あまりそうではない	エ・・・全然していない、全然そうでない

設問	項目	ア	イ	ウ	エ
C	10 学校や社会のルールを守り、自分のすべきことを果たしている。				
	11 だれに対しても公平に接している。				
	12 世の中や人のためになることを進んでしている。				
	13 クラスやクラブの活動などで、自分の役割を知り、責任を果たしている。				
	14 家族の一員として、家族の役にたつことをしている。				
	15 自分の役割を自覚し、みんなで学校をよりよくしていこうとしている。				
	16 奈良や北海道の文化や伝統に興味をもち、よりよい町にしていきたいと思っている。				
	17 日本の伝統や文化に興味をもち、よりよい国にしていきたいと思っている。				
18 外国の文化や人々に興味をもち関わろうとしている。					

家族は生徒たちにとって、様々な社会集団で過ごすために大切なことを数多く学ぶ場所である。そこで、本時では「一冊のノート」の主人公の心情の変化を考えながら父母、祖父母への敬愛の念を深め家族の一員として互いを思いやり感謝の気持ちを持って家庭生活を送ろうとする心情を引き出し表現させたい。そして、自分自身が家族にとって、かけがえのない存在であり、自らのやさしなどの振る舞いが家族に大きな影響を与えることに目を向けてもらいたいと考える。また、本時でねらいとする道徳的価値に迫ることで、家族に貢献できる自分の存在に気づき、自己肯定感の向上につなげたいと考える。

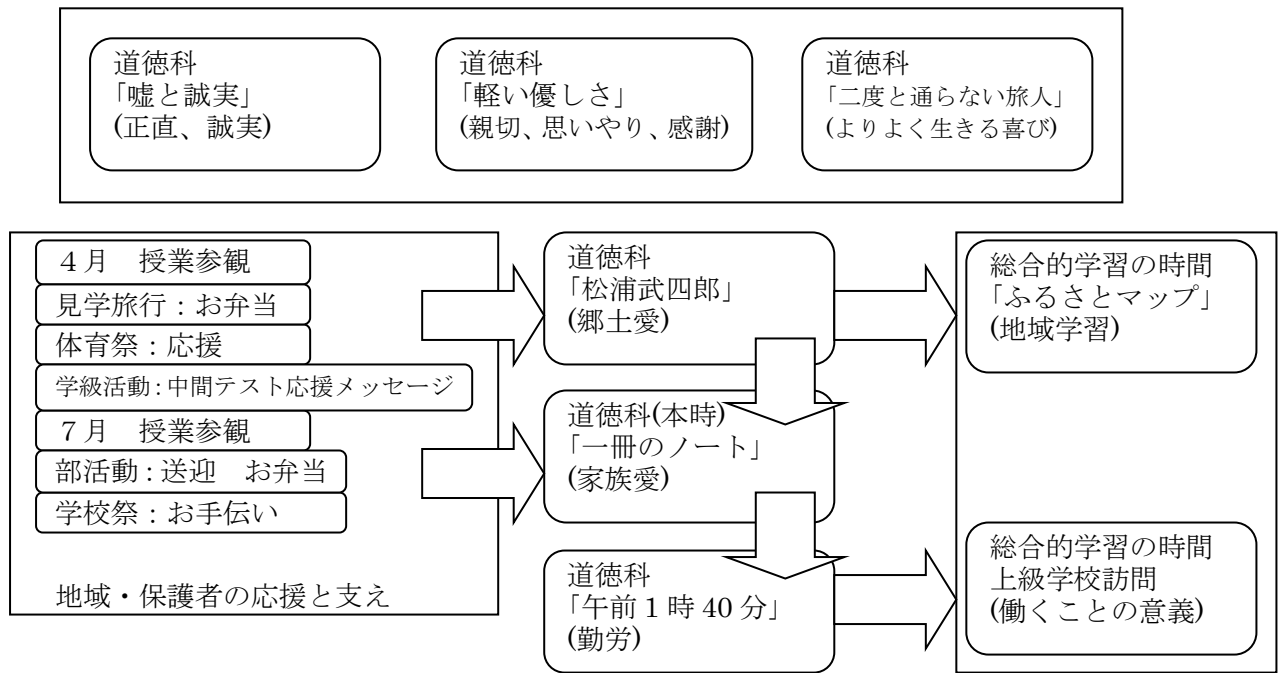
(3)教材について

本資料「一冊のノート」では物忘れが激しくなり年老いていく祖母にいらだつ主人公が苦悩しながら家族のことを思い続ける祖母の思いに触れ、感動し、祖母への思いを新たにすることが描かれている。この資料を通して日常の生活を見直し家族の思いを受け止め、その一員としての自らの役割などを考えさせたい。本時の学習では主人公の祖母に対する心の変化を考えさせ道徳的価値を自覚させたい。

4 他の教育活動とのつながり

【他の内容項目との関わり】

- A 主として自分自信に関すること：正直、誠実
- B 主として人との関わりに関すること：親切、思いやり、感謝
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること：よりよく生きる喜び



生徒はさまざまな場面で家族に支えられている。家族の深い愛情を知り、自分自身がかけがえのない存在であると気づいてもらいたい。また、家族の中での自分の役割を自覚し実践することで、地域などその他の集団でも活躍し認められたいという気持ちを高めて欲しい。

5 指導の工夫

(1)導入時における「問題意識を持たせるような効果的発問」

家族との関わりで抱いたマイナスの感情による衝突場面を想起させる。一方、行事での応援や部活での送迎などお世話になっていることにもふれ、家族と笑顔で暮らすために自分ができることを考えようという課題設定につなげたい。

## (2)展開時における「議論しやすい、議論になる効果的な中心発問」

本時の中心発問は「僕が祖母を笑顔にするにはどうすればよいか。」である。自分の立場を明らかにすることで傍観者として教材を読むのではなく、自分事として真剣に考える状況に導きたい。ここで生徒が考えると予想できることは、これまでの自分の行いを謝罪することと祖母の状況を考えた温かい言葉がけである。自分の気持ちを伝えることの大切さ、成長したいと願い行動を変えることの必要性を感じさせたい。

## (3)展開時における「目的に応じた効果的な話し合い活動」

(2)で明らかにした自分の立場にそって、どのような言葉がけをするか、どのように行動を変えていくか考えさせる。家族の気持ちに寄り添って考えることやその一員としての自分が貢献できることに気づかせたい。また、話し合いは、席が近い人どうしで行い、その後、全体で交流する。

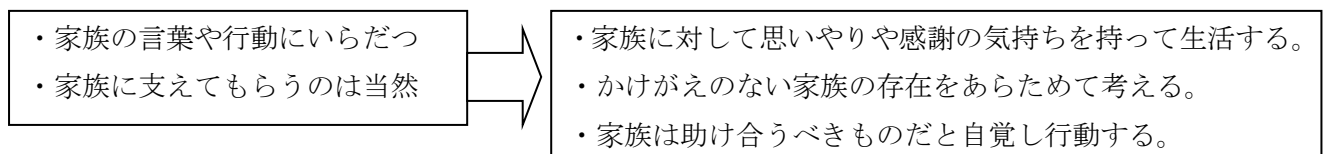
## (4)道徳的価値を道徳的実践につなげる手立て

(3)の話し合いのあと、数名の生徒を指名し場面絵の祖母に向かって言葉をかけさせる。言葉遣いや抑揚に着目させ、気持ちを伝えるための工夫について考えさせる。

## (5)思考を深める手がかりとする板書

生徒が短時間で問題場面を把握できるように資料の展開に合わせた場面絵やキーワードになる言葉を掲示する。

## 6 目指す生徒の変容



## 7 本時について

### (1)本時のねらい

問題場面を自分事としてとらえ、かけがえのない家族の存在に気づきその一員として関わり合いながら充実した家庭生活を築こうとする。

(2)本時の展開

	主な学習活動 (○発問 ◎中心的な発問)	指導の留意点△支援 □評価
導入 5分	<p>(1) 家族との関係を見つめる。</p> <p>○家族のことで困ることはありますか？ →「勉強しなさい」「片づけなさい」・・・やる気をなくす</p> <p>○家族は大切ですか。 A：そう思う B：だいたいそう思う C：そう思わない</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>家族と笑顔で暮らすために自分ができることを考えよう。</p> </div>	<p>△和やかな雰囲気づくりを心がける。</p>
展開 前半 30分	<p>(2) 資料「一冊のノート」の前半を知り話し合う。</p> <p>○僕はおばあちゃんのことをどう思っていたか。 ・ 困る・迷惑・うっとうしい・恥ずかしい</p> <p>○僕は「だけど・・・」のところで本当は何を言いたかったのか。 ・ 怒りの気持ち・頼りたい・変化への困惑</p> <p>○祖母にどのような態度で接していたか。 ・ 責任転嫁・声を荒げて言い返す・一斉に非難</p> <p>(3)資料「一冊のノート」の後半を知り話し合う。</p> <p>○一冊のノートを読んで僕が知ったことは何だろうか。 ・ おばあちゃんの悲しみ、不安、家族を思う気持ち。</p> <p>◎僕が祖母を笑顔にするにはどうすればよいのか。 ・ 個人思考・・・ノートに書く。</p> <p>(4)モラルスキルトレーニングをおこなう。</p> <p>①2組のペアによる交流 2人1組で「僕」と「祖母」を演じる。残りのペアが評価する。</p> <p>②全体交流・・・良い評価の共通点をまとめ全体で確認する。</p>	<p>□心情円・発言 心情円を用い祖母に対する複雑な思いを表現し、その根拠を述べることができるか。 青・・・マイナス感情 黄色・・・プラスの感情</p> <p>△範読し「僕」の気持ちの変化に気づかせる。 △祖母の心情円がプラスの感情100%になる関わりを考えさせる。</p> <p>△心情円を手がかりに感想を伝えるよう指示する。</p>
展開 後半 10分	<p>(5)課題に立ち返り自分の家族について考える</p> <p>○家族と笑顔で暮らすために自分ができることを考えよう。</p>	<p>□ワークシート・発言 家族の思いを理解し、自分の役割に気づくことができたか。</p>
終末 5分	<p>(6)学習のふりかえり</p> <p>①VTRを「銀の皿」を視聴する。</p>	<p>△本時の学習活動が今後の生活に生かせるよう余韻をもたせる。</p>

(3) 本時の評価

- ・家族の思いを理解しようと努め、その一員として自覚をもって行動しようとする思いをもてたか。  
(発言・ノート)

8 板書計画

